

令和6年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

上島町教育委員会
上島町立魚島小学校
上島町立魚島中学校

1 取組の目的

魚島地区は、瀬戸内海のほぼ中央部に位置する離島であり、魚島・高井神島の二つの有人島と無人島から形成されている。上島町役場がある弓削島までは13km離れており、客船で45分程かかる。居住地のほとんどが、上島町防災マップにおいて急傾斜地警戒区域に指定されており、土砂災害の危険箇所が多い地域である。また、古い建物や空き家が多く、南海トラフ地震による家屋の倒壊、火災の被害が想定される。

そこで、小・中学校と地域が連携し、体験的な活動や専門家による防災学習会を実施したり、地域や専門機関の助言を受けながら授業実践や防災安全マップづくりなどに取り組んだりしていく。また、交流学习やICTを活用して遠隔授業を実施し、防災安全マップなど学習した事項を発信する活動を通し、多様な視点から防災・減災について考えようとする姿勢を身に付け、自助・共助の力を発揮しようとする意欲を高めていく。

そして、安全・安心な地域社会づくりの担い手として、地域に貢献できる力を身に付けた児童生徒を育成する。

2 取組の内容

〈6月17日・7月11日・10月23日 魚島地区防災教育実践委員会〉



防災教育や避難所開設等について、学校と地域関係者、行政関係者との連携を図った。また、愛媛大学防災情報研究センターの二神先生に、能登半島地震から見た南海トラフ巨大地震の課題についてご講演をいただいた。

〈6月17日 まち歩き〉



防災教育実践委員や自主防災会、消防本部の職員、保護者ら20名の地域の方々にご協力いただき、防災の視点から地域を見るまち歩きを行った。小中学生が、自分の住んでいる地域を大人と一緒に歩き、危険な場所や過去の災害等について教わった。

<7月8日 着衣泳講習会>



上島町消防本部の方を招いて着衣泳を行った。まず、着衣泳の学習の必要性について教えていただき、水難事故や水害事故から自分の命を守る方法を確認した。海で実施したことで、波の恐ろしさを体験することができた。

<7月11日 防災マップづくり>



まち歩きで得た情報を基に、小中学生が協力して、防災マップづくりを行った。オンラインで愛媛大学防災情報研究センターの二神先生に、指導・助言をいただいた。作成した防災マップは、保護者や地域に向けて発信した。

<7月16日 砂防学習会>



愛媛県土木部河川港湾局砂防課の方を招いて、弓削小学校と合同で砂防学習を行った。降雨体験装置や3D土石流シアターを用いて、災害の恐ろしさを肌身で感じることもできた。また、水中歩行体験を通して、洪水時の避難の難しさについて学んだ。

<9月26日 避難訓練>



大雨による土砂崩れや地震を想定して訓練を行った。非常持ち出し袋を持って非難する習慣が身に付いている。訓練後は管理職の指導により、危険区域や頭を守ることの重要性について理解を深めた。

〈9月26日 手つなぎ防災広場〉



日本赤十字社愛媛県支部の方を招いて、「手つなぎ防災広場」を実施した。保護者や地域の方と一緒に非常食を作って食べたり、三角巾やバンダナを使った応急手当の実技講習を行ったりして、災害時に生かせる知識や技能を身に付けることができた。

〈11月12日 学習発表会〉



〈12月17日 防災学習発表会〉



保護者や地域の方を招いて、継続的に取り組んだ防災学習について発表した。また、今治市立岡村小学校・関前中学校とオンラインで防災学習発表会を実施した。学習発表会を通して、一人一人が防災学習を振り返り、防災意識を高めることができた。

3 取組の成果

本年度の取組では、異校種・異学年合同の防災学習が進み、特に総合的な学習の時間や道徳科を活用して計画的に指導を行うことができた。また、地元の児童生徒と離島留学生が協働して学ぶことで、互いの立場を尊重し合いながら学習を進めることができた。

実践委員会委員と行ったまち歩きや地域の防災訓練への参加、手つなぎ防災広場などの活動を通して、地域との交流が深まり、地域の一員としての役割を自覚する良い機会となった。また、学習発表会では、学習の成果を参加者に向けて発表することで、地域の防災への関心を高めることに貢献できた。

4 今後の課題

今年度の実践を踏まえ、異校種・異学年合同の防災教育をさらに充実させ、児童生徒と地域住民が一体となった学びの場を継続的に提供していきたい。特に、毎年異なる背景を持つ離島留学生が転入することを踏まえて、防災教育の取組を強化する必要がある。また、ICTは災害時の連絡手段として重要性が高いものの、通信が遮断される恐れがある。災害時の通信環境の整備や保護者との連携方法を再検討し、より実践的な対応ができるよう準備していきたい。地域との協力を深めるため、さらに多様な防災イベントや地域活動に参加し、地域全体で防災意識を高めていく方針である。